



JAAGAだより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会
〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町9番7号
ZEEKS 四谷坂町ビル 3F
編集：JAAGA事務局
印刷：アロー印刷株式会社
ホームページ：http://www.jaaga.jp/

平成29年度 JAAGA 総会開催 JAAGA Annual Convention held on 9 May 2017

平成29年度JAAGA総会が5月9日(火)、グランドヒル市ヶ谷において開催された。引き続き講演会、懇親会には賛助会員・招待者が加わり、空自隊員・米軍人の殆どが半袖の制服で参加する軽快な雰囲気の中で、整齐と一連の行事が実施された。

【総会】

年次総会が15時から16時15分までの予定で開催された。福井理事の全般進行により、審議に先立ち、本年4月17日にご逝去された故石川吉夫氏の御冥福を祈り、全員で黙祷を捧げた。引き続き、岩崎茂会長から「会長就任から1年が過ぎた。昨今の情勢には厳しいものがあり、昨日九州で陸・空自隊員、自衛隊の協力者に講演をしたが、皆さん緊張感をもって毎日を送っている。JAAGAは21年前の在日米(空)軍がづらい(注：冷戦終焉後の国際環境の変化に加え、沖縄での不幸な事件に対する日本国民の反応が米軍人・家族の士気に大きく影響)時期に発足し、歴代会長・会員が育ててきたが、我が国の安全のために頑張ってくれている空自・米空軍の隊員を支援するためにも、日米の架け橋となれるようご協力をお願いします。会員数は微増したが、多くの人に我々の活動を理解してもらいより活発に活動するためにも、会員の皆さんによる勧誘をお願いしたい」との挨拶があった。



President Iwasaki presides over the meeting

議案審議は、岩崎会長が議長を務め、第1号議案(28年度事業報告)、第2号議案(28年度決算報告)、第3号議案(29年度事業計画(案))、第4号議案(29年度予算(案))、第5号議案(会則の一部改正(案))、第6号議案(監事の選任(案))の6つの議案について、担当理事による説明の後質疑応答を経て、何れの議案も提案通り承認された。特に、第1～第4号議案については、大学生等の米軍基地研修支援、入会案内要領、会員の参画意識、広報活動、懇親会・基地研修時の着意等について、質疑に加えアドバイスをを含む意見が披露された。また、第5号議案については、賛助会員として新たに「団体」を規定する改正案が、質疑なく承認された。



Deliberation of Agenda among Regular Members

正会員総数256名の内、出席者65名、委任状提出者161名の計226名をもって会則の規定により総会が成立し、議案審議、報告事項、新旧役員等の紹介の順に審議等が進められた。



Scene of Q&A session during the deliberation

新監事の選任を経て全ての議案の審議が終了した後、報告事項として、役員会で選任された新理事、支部役員等が報告されるとともに、新役員等及び退任者並びに理事の所掌分担が紹介され、出席会員全員から温かい拍手が送られた。引き続き、長年にわたり会の運営・発展に尽力された四ツ家顧問、阪東理事、新井理事(退任)に対し、岩崎会長から感謝状が贈呈され、定刻に5分程



Presentation of letter of appreciation to three JAAGA officers for long term endeavor (from left Mr. Yotsue, Mr. Bando, Mr. Arai)

てオランダの統連合軍司令部運用副部長、米輸送軍統合作戦センター長、デュポン社国防長官企業フェロープログラム、航空機動軍司令部監察官等の勤務経験を有し、前職の航空機動軍司令部作戦部長から昨年10月に現職に就かれた旨紹介

度余裕をもって総会議事を終了した。(木村理事記)

【講演会】

在日米軍司令官兼第5空軍司令官マルティネス中将(Lt. Gen. Jerry P. Martinez)による講演が、16時半から18時までの間、「刻々と変化する日本の安全保障環境(Japan's Ever changing Security Environment)」の演題で実施された。日英の逐次通訳は、司令官特別補佐官であるコールマン女史(Ms. Janette Coleman)が的確に務めた。また、5空軍の依頼によりAFN(American Forces Network: 米軍放送網)のテレビカメラによる取材が行われた。



Guest speaker Lt. Gen. Martinez gives a lecture on "Japan's Ever-changing Security Environment" to JAAGA members as well as active duty personnel of JASDF and USAF

定刻に、講師である Martinez 司令官と Kim 夫人が拍手に迎えられて入場し、講師は着席するやいなや、「温かい出迎えありがとう。JAAGA の皆さんに話す機会を心待ちにしていた」と切り出し、臨席の横田基地周辺自治体首長に謝意を述べ、講話のテーマについて説明を始めた。どのタイミングで講師紹介をしようかとそわそわする司会に気付いた講師は、「ア～アッ、私は話しを進める準備が出来てしまっていた」と笑顔で司会にバトンを戻し、会場は爆笑に包まれ一気に和んだ。

司会担当の伊藤理事から講師の経歴として、1986年に米空軍士官学校卒業・任官、C-17A、C-5B、C-141B、KC-135R で 4,000 時間以上の経験を持つ最上級操縦士であり、指揮官として第 62 空輸航空団司令、幕僚とし

がなされた。司会の「どうぞ」の合図に笑顔で「OK!」と応じた講師に、再び会場から大爆笑と拍手が送られた。講師は在日米軍の部下や航空自衛隊に対する感謝の気持ちに続き、“very attractive lady”として Kim 夫人を紹介した。

引き続き講演は、①<View of Regional Threats (Dangerous Region - Living Beside Three Nuclear Neighbors)>、②<Status of the U.S. - Japan Alliance>、③<Evolution of Japanese Self - Defense Force>、④<U.S. Military Contributions to Japanese Security>、⑤<Final Thoughts>という構成で、数枚のスライドを提示しつつ行われた。日本に対する信頼と尊敬の念が随所に滲み出る中、日米同盟の重要性、日本防衛の責任を果たす決意と能力を誇りを持って話された。誠実、真摯かつ情熱的な講演と、聴衆、自衛隊、在日米軍の部下に敬意を払いつつ聴衆と一体となる人柄に、参加者は大いなる感銘を受けたようである。講演内容の要旨及び質疑応答は以下の通り(原稿、配布物はなし)。

1 講演内容

(1) 地域の脅威

米国がこの地域をどう見ているか話す。太平洋地域において日本ほど刻々と変化・発展している国は他にない。これは政治的環境の変化も一因であるが、大きな要因は 6 年間で日本に対する脅威が大きくなってきたことである。周辺国を見ると、中国は国防費がどんどん大きくなり、北朝鮮は政権が代わり軍事技術がどんどん良くなり、ロシアはクリミア・ウクライナに対する事例にも見られるように活動が活発化している。これらの国々の脅威は日本にも影響を及ぼしている。昨年空自は 1,168 回の緊急発進を行い、前年度より 300 回近く増加している。73%は対中国機であり、27%の大部分は対ロシア軍機である。一つ一つの国について、私の見解を述べる。



Mrs. Kim Martinez and concentrating audience on the lecture

北朝鮮は、日本の安全保障上最大の差し迫った脅威であり、2013年以降3回の核実験を行っている。ミサイル発射の殆どを占めるMRBM、IRBMは距離の近い韓国を目標とするものではなく、東の他の国に向けたものである。最近日本海に4発撃ち、在日米軍基地向けである旨の声明を公共テレビで発出した。化学兵器の能力も保持しており、マレーシアで兄に使用したことから、これの使用を躊躇しないことは明らかである。

中国の長期的・戦略的目標は、東に勢力を拡大して影響力を大きくすることである。グアムは米国にとって戦略的に重要な島であるが、中国は7つの人工島を作って領土と主張し軍事化しており、いわば7つのグアムを手に入れたものと同じと自分は見ている。これ自体が日本に大きな影響を及ぼすことになる。なぜなら日本への原油の85%は南シナ海を経由するが、南シナ海・東シナ海における海上交通をコントロールする軍事的能力を発揮することが可能となるからだ。尖閣諸島周辺で様々な活動、挑発的行動をしており、万が一領土化・軍事化すれば、日本のすぐ足下に迫っている状況となり、それは決して我々が許してはならないことである。

ロシアは、静かに気付かれぬように太平洋地域に軍を再配備している。このこと自体に懸念を持つべきである。ウクライナ、バルト3国に対するような悪い行為を、日本に対して起こさせるわけには行かない。

このような国々が行動している地域であるからこそ、日本の地理的な重要性は極めて重要 (so, so, so important) であり、米国にとって太平洋地域の平和と安定の重要な土台が日本ということになる。日本列島の地理的存在、日本が平和である状態、日本国民の平和を守る意思がなければ、3つの国はどんどん東に進出してくる状況にある。米国にとって、おいしい寿司や酒がある国というだけでなく、日本はとても重要 (very, very important) である。このような強国及びそれに準ずる隣国の活動に対し、日本は日々対処している。

(2) 日米同盟の現状

どのように脅威に対処すべきか。日米同盟ほど強固な同盟は世界中にない。日本の人々の安全を保障するとともに、同盟の強さを示すことによって日本への危害を抑止するために、同盟は強くなければならない。日米間には多くのメカニズムがあり (同盟調整メカニズム (Alliance Coordination Mechanism)、日米合同委員会等に言及)、共同で運用し相互運用性を確保し (共



Lt. Gen. Martinez is addressing to each participant

同訓練、ACSA、情報共有、対情報に言及)、同盟を維持強化するための様々な取組 (沖縄に関する協議等に言及) を行っている。米国は沖縄県民の対米軍感情を十分理解しており、県民の負担軽減に日々努力している。全ての点で日米が一致しているわけではないが、米国は、日本防衛のためにできるあらゆる手を尽くす。時にとてもハードな訓練が沖縄に問題を起こすこともあるが、日頃から忌憚のない意見交換を行うことで、こうした問題を解決し乗り越えることができている。韓国は、日米同盟に寄与している。日・米・韓には共通の脅威があり、3国が協力し合うことにより脅威を克服できる。ここ数年で日韓の協力関係は大分進展してきたと見ている。米国にとって



JASDF officers from nearby bases, JAAGA Award recipients, and USAF officers and NCOs of 5th AF are significant in blue uniform



北朝鮮問題への対応に当たり、日韓関係は重要である。

(3) 自衛隊の進化

日本がこれまでどのように周辺の安全保障環境を確保してきたかについて話す。日本国憲法に戦争放棄が明記され日本が常に平和的に解決してきたことから、世界的に日本は愛されている。しかし、不幸にも脅威の中身が変わってきた。個人的見解だが、日本は安全保障環境の変化に迅速に対応してきた。憲法を守りながら地域の安全を確保する第一級の軍事力を有している。自衛隊法 95 条の 2 の武器等防護に関する取り決めは日本にとってとても大きな一歩であり、自国同様に同盟国も守れるようになった。数日前に海自が米海軍艦船を対象



Lt. Gen. Martinez responds to questions sincerely and modestly with natural humor

とする武器等防護任務に初めて従事したことは、この地域のあらゆる国に対する強力なメッセージである。航空機についても同様な任務をやってほしい。水陸両用戦能力の構築を日本は強力に実施中である。日本の島嶼防衛上、この能力は大きな価値となる。装備品の更新も強力に進め、自衛隊の様々な装備は最新鋭である(F-35、イージス艦、パトリオット PAC-3、SMIII Block2、グローバルホーク等)。オスプレイの調達も検討されている。海自護衛艦「いずも」が南シナ海を航行することを最近安倍総理が公表した。これら全てのことが、日本と周辺の安全をしっかりと守っていく日本の強い意思を世界に示すことになっている。多くの達成は全て日本が独自にやってきた大きな功績の数々であり、日本が強い意思を持って前に進んで行くそのやり方を、米国としては大いに誇りに思っている。太平洋地域において、周辺国が日本を信頼が置ける国、必要時にしっかり対応する国・自衛隊であると見ていることは明らかである。米国は日本を誇りに思う。日本人も日本・自衛隊を誇りに思って欲しい。憲法を維持しつつ国を守る方策を考え対応してきた素晴らしい国である。

(4) 日本の安全に対する米国の軍事的貢献

安全がこの地域で脅かされた時、解決するためにすべきことがある。それは友人であり同盟国である米国のことであり、米国がどのように日本の安全に寄与しているかについて話したい。この数ヵ月間に、カーター前国防長官、マティス国防長官、ティラーソン国務長官、ペンス副大統領が訪日した。次期大統領に決定した就任前のトランプ氏を世界のリーダーで最初に訪問したのは安倍総理である。トランプ大統領が最初に招待した外国のリーダーも安倍総理である。米国にとって日本がいかに重要かを表している。在日米軍の将兵は 54,000 人を超える。在韓米軍は 28,000 人であり、日本には倍の米軍将兵がいる。グーグルで調べたことなので正確性は定かではないが、日本は米軍人が最も多く勤務する国であり、ドイツ、イギリス、イタリアやアフガニスタン、イラクのような中東諸国よりも多い。米国にとって疑いもなく日本が重要であることを、皆さん分かってくれれば嬉しい。装備も最新鋭のものを日本に配備している(空母ロナルドレーガン、F-35、E-2D、RQ-4 グローバルホーク、C-130J に言及)。最も優秀な装備を日本に置くと言うことは、日本の皆さんに対する明確なメッセージである。米軍は世界中にプレゼンスがあり、私も多くの国での勤務経験があるが、日本ほど米軍の最新鋭の能力を有する国はない。

(5) 結論

米軍は強く、日本防衛に係る条約上の義務を果たす用意ができています。米国は日本の安全に対して深くコミットしている。自衛隊と協力して(side-by-side)対応していく決意である。自衛隊は、世界で一流かつ最新装備を有する信頼できる軍事組織である。日米が一緒になって協力し合うことによって、我々は常に日本の安全・防衛を確保していくことができる。米国はこの同盟のパートナーであることを大いに誇りに思う。日本と日本国民に対して大いなる(tremendous)尊敬の念を持っている。敵対的な国(adversaries)に対する我々のメッセージははっきりしている。何があっても決してこの同盟を壊すことはできない(They will never, ever, ever brake this alliance)ということである。

2 質疑応答

約 55 分間に及ぶ日本人として勇気づけられる講話に一区切りが付き「最初の質問までの時間は落ち着かない」との講師の発言に会場が和んだところで、以下のような質疑応答がなされた。

Q1: 米空軍には欧州、アジア特に日、韓の勤務者が多くいる。本国に戻ったとき勤務した国に愛着が湧くと思うが、欧州や韓国での勤務に比べて日本への愛着はどの程度強いのか。

A1: 在日米軍司令官に就任することが内々決まった時点で、本当に多くの人から「日本を絶対に好きになる。日



Scene of thoughtful and enthusiastic Q&A session

本人は親切で素晴らしい」と電話をもらった。数ヶ月前東京で地下鉄に乗る時、誰かが背後から妻の Kim をつけてくる気配を感じた。米国では 911(警察)に通報する場面だが、結局その人は、我々が困っていると思って声をかけてくれて目的地に向かうホームまで案内してくれた。色々な国に行ったが、このような親切に出会ったことはなかった。また、赴任前にチップ・ブラウン大佐という友人と食事を共にしたが、彼から「日本人は世界中のどの民族と比べても親切で素晴らしい。JAAGA のアドバイスは何でも聞くように」と言われた。冗談ではなく本当のことだ。

Q2: 私は現役の3等空曹です。JAAGA は「日米の良好な関係」を重視していると思うが、米軍と空自の関係にとって、下士官レベルで重要なことは何か。

A2: 私の父は退役 Master Sergeant であり、私は下士官の息子だ。下士官の人たちをとて尊敬している。命令したことを実際にやってくれるのは下士官である。私の軍歴の中で最も光栄に思った出来事の一つは、Chief Master Sergeant 達が集まってサプライズで私を名誉 CMSgt. にしてくれたことである。米軍では SEL(Senior Enlisted Leader) が常に指揮官の傍らに居り、指揮官に対するアドバイスのみならず決心も行う。日米同盟の中で下士官を強い存在であり続けさせるためには、下士官を軍でどのように活用するかについて考えを共有していくことが挙げられる。米軍では指揮官が出張する際に SEL が同行しないことはまず無い。自衛隊においても、よりそのようになって欲しい。下士官はどの軍種においても戦力の基盤であり、ちゃんと面倒を見ていく必要がある。空軍士官学校卒業に際し父から「しっかり下士官の面倒を見よ」と脅された。私は常にそのように心がけてきたし、下士官とともに勤務することを誇りに思っている。

Q3: 横田基地にまもなくオスプレイが配備されると聞いている。首都圏で災害が発生した際に有用であることは軍で勤務した者は理解できるが、一般の人にはオスプレイの評判は芳しくない。横田基地司令 Moss 大佐は地元と良い関係を保っているが、周辺自治体の首長の中にはオスプレイ配備に対する不安もあるだろう。在日米軍・5 空軍としてどのように基地を指導していく考えか。また、横田基地周辺にも反対のための反対をする人たちがおり、首長は苦勞しているであろう。どのように説得していくのか。

A3: 通訳がなくても感覚で質問を理解できる(その後の質問内容の英訳に時折笑みを浮かべる姿に聴衆は和み、Coleman 女史が一気に英訳を終えた際には聴衆から拍手が沸き起こった)。オスプレイに対する不安が日本にあることは理解している。何年も前のオスプレイの安全上の不備に起因すると理解しているが、ここ何年もの間、素晴らしい安全記録をもって運用されている。強い同盟のためには忌憚のない意見、何でも言い合える関係、場が必要であり、Moss 大佐はもちろんのこと指揮官レベルの者には、基地の外に出て地元の人と話し合うことを推奨している。岩国への F-35B の配備に当たっては、合意にこぎ着けるまでに岩国市長と多くの話し合いを持った。米国人として肝に銘じるべきは、ここはあなた方の国日本であり、日本人の不安・懸念を尊重することである。オスプレイ配備に関し、地元の人々にいくつかのことを正しく伝える必要がある。それは、何年にもわたって安全に飛行運用していること、昨年の実績で明らかなように大地震時にオスプレイは重要な支援を日本に提供できること、地元の不安を米軍がしっかり聞けるメカニズムを確保することである。これらにしっかり取り組めば、横田基地にオスプレイを順調かつ安全に配備できよう。

Q4: 日米安保体制が最も良い高度な次元にあることは、司令官が説明された通りである。ここ 5 年ほど安倍政権下で国内の安保体制整備にも努めてきた。これらについて、ワシントンで日米関係の仕事に従事している人は理解しているだろうが、今後日米安保体制を更に強化していく観点から言うと、一般の米国人にも日米安保体制の重要性を理解してもらう必要があると考える。司令官として一般の米国人にどのように説明したらよいとお考えか、伺いたい。

A4: 次のオリンピックをホストすれば日本をよく知ってもらえる(と笑いを誘い)、米国内の一般市民に日本の重要性を伝えるために、色々なことができると考える。日本と同様に米国でも、市民は政治リーダーを見ている。国防長官、副大統領、國務長官の来日に関し妻と閲覧しているフェイスブックの多くの写真は、米国内でも見ることができる。日本の重要性を米市民に大きく理解させた出来事として、北朝鮮の挑発的行動がある。米国中の市民が TV ニュースを見て、北朝鮮と太平洋地域がどのような状況を理解しようとしている。これ自体が米国市民に対す



President Iwasaki, with thankful mind, shakes hands firmly with Lt. Gen. Martinez

保障環境について、幅広い情勢、日本の防衛努力、米国の見方にわたる、非常に貴重な講演を頂いた。特に、日米同盟が世界で最も強力で信頼のある同盟だという言葉が何度も強調されていた。これは我々・先輩を含めてこれまでの空自のたゆまぬ努力が成熟して実っているということだと思う。多くの人が今日の在日米軍司令官の言葉に感動したと思うが、我々が作り上げた関係が今は最強であっても明日以降将来にわたってどうなるかは、JAAGA が趣旨に則り空自と米軍の間に立って支援をすることと、現役の皆さんが我々以上に頑張る強力な日米関係を築くことにかかっている」との謝辞に続き、「贈り物をしたいが厳しい倫理規定があるので、握手のみとしたい」との言葉で会場がどっと沸く中、Martinez 司令官とJAAGA を代表する岩崎会長との間で固い握手が交わされ、講演会は温かい雰囲気とともに定刻をもって終了した。
(杉山(伸)理事・木村理事記)

る教育である。ご指摘のように一般の米国市民は日本の重要性を十分に理解していないかも知れないが、54,000 人の米軍将兵が日本で勤務していることは知っており、そのこと自体が米市民が日本に対して尊敬の念を抱くことにつながっている。ご質問の意図はしっかり理解したので、私が米国に帰ったら、できるだけ多くの人に日本のことをしっかり話していく。

会員及び空自隊員からの質問に、講師は終始にこやかにして誠実さ溢れる態度で応じ、質疑応答セッションは時間ぎりぎりまでの 30 分間に及んだ。

最後に岩崎会長から、「刻々と変化する日本の安全

【懇親会】

総会及び講演会に引き続き、懇親会が 18 時 15 分から 19 時 45 分まで開催された。会員、招待・案内者、防衛省及び米空軍の現役等、200 名を超える関係者が集まり盛大に実施された。今回は米空軍から昨年の 2 倍を超える参加があり、JAAGA 会員や現役航空自衛官との友好親善の更なる発展の一助となる懇親が図られた。

(早坂理事記)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※



Gorgeous guests, and smiles + smiles for peace and solid alliance





グアムにおける日米豪共同訓練参加隊員を激励 JAAGA cheers JASDF participants to Cope North 17

1月30日(月)、小野田理事長、中島理事、福永理事及び渡部理事が13時から航空支援集団司令官小城真一空将を、15時30分から航空総隊司令官前原弘昭空将を訪問し、グアムにおける日米豪共同訓練(CNG)及び日米豪人道支援・災害救援共同訓練(HA/DR (Humanitarian Assistance/ Disaster Relief)訓練)に参加する航空総隊及び航空支援集団の参加部隊を激励し、訓練の成功を祈念した。両司令官からは「JAAGAからの激励に参加隊員を代表し心から感謝申し上げます」との感謝の意が表せられた。また、小城司令官からは、訓練規模、訓練内容は年々充実し、隊員たちがCNGを日常的な移動訓練の一コマとして考えるようになった事、また、HA/DR訓練には管制、気象、機動衛生の隊員も参加し、実践的な場で先遣調査チームとしての訓練も行うとのコメントがあった。

本訓練は、日米豪共同訓練による日米共同対処能力及び部隊の戦術技量の向上並びに人道支援・災害救援活動に係る米豪軍との相互運用性の向上を目的とし、1月30日(月)～3月19日(日)の期間(展開、撤収を含む)、アメリカ合衆国グアム島アンダーセン空軍基地、北マリアナ諸島サイパン島、テナアン島、ロタ島及びファラロン・デ・メディニラ空対地射場並びに同周辺空域において実施される。CNGは2月15日(水)～3月3日(金)に、HA/DR訓練は2月12日(日)～2月25日(土)にそれぞれ実施される。両訓練を通じ、航空総隊からは第8航空団(築城)、第9航空団(那覇)、航空救難団(入間)及び警戒航空隊(三沢)の人員380名、F-15J/DJ×8機、F-2A×6機、U-125A×2機及びE-2C×2機が参加、航空支援集団からは第1輸送航空隊(小牧)及び航空機動衛生隊(小牧)の

100名、C-130H×2機及びKC-767×2機が参加する。CNGでは防空戦闘、えん護戦闘、戦闘機戦闘、空対地射爆撃、電子戦、空中給油、戦術空輸及び捜索の訓練が、HA/DR訓練では航空輸送、物料投下、不整地離着陸、航空患者搬送及び飛行場応急措置訓練が実施される。なお、飛行場応急措置訓練は今回が初めて。(渡部理事記)



JAAGA Chairman Onoda, Director Nakashima, Watanabe and Fukunaga call on Lt.Gen. Maehara, Commander of Air Defense Command in Yokota AB on 30 Jan. 2017



JAAGA Chairman and directors call on Lt. Gen. Kojo, Commander of Air Support Command in Fuchu AB on 30 Jan. 2017



Several scenes in Guam during exercise



レッド・フラッグ・アラスカ参加隊員を激励 JAAGA cheers JASDF participants to Red Flag Alaska 17-2

5月16日(火)、小野田理事長、中島理事及び福永理事が航空総隊司令官前原弘昭空将(横田基地)及び航空支援集団司令官小城真一空将(府中基地)をそれぞれ訪問し、演習に参加する航空総隊及び航空支援集団の隊員へのJAAGAからの激励品目録の手交が行われた。小野田理事長から訓練成功を祈り激励の言葉をかけ、両司令官からはそれぞれ、JAAGAの支援に対する感謝と訓練成功への意気込みが述べられた。

2017年度 レッドフラッグ・アラスカ訓練は、5月25日

(金)に先発隊が出発し部隊撤収日の7月1日(土)まで行われる。演習期間は6月9日(金)～24日(土)の15日間予定されている。参加規模については、人員約300名(総隊約180名、支集団約120名)、航空機F-15×6、E-767×1、C-130×2、KC767×2である。

今回の訓練内容はほぼ例年通りで、防空戦闘訓練、空中給油訓練、戦術空輸訓練が実施される。戦闘機部隊の主体は、第2航空団である。

(福永理事記)



JAAGA Chairman and Directors call on Lt. Gen. Maehara, Commander of Air Defense Command on 16 May 2017



JAAGA Chairman and Directors call on Lt.Gen. Kojo, Commander of Air Support Command, Maj.Gen. Hiratsuka, Vice Commander and Col. Matsumiya, Chief of Staff on 16 May 2017

米空軍第9遠征爆撃飛行隊(グアム) との共同訓練 JASDF F-15Js conduct joint training with UASF B-1B on 22 Mar. 2017

空自第5航空団(新田原基地)は、3月22日(水)九州周辺の空域において米空軍第9遠征爆撃飛行隊(グアム) B-1B×1機との共同訓練を実施した。5空団所属のF-15J×6機は、B-1Bをエスコートする要撃戦闘訓練や編隊

航法訓練を行い、日米共同対処能力及び戦術技量の向上を図った。B-1Bは、空自との共同訓練後、日米韓三か国の強固で緊密な連携の一環として韓国空域で韓国空軍との共同訓練を行った。(参考:空幕HP、早坂理事記)



Joint Training over the sea around Kyushu between B-1B of 9th Expeditionary Bomb SQ. and F-15Js of 5th Air Wing, photo by ASO

C-2型輸送機的美保基地配備 First deployed C-2 transport aircraft at Miho AB on 30 Mar. 2017



Miho AB welcomes the first brand-new C-2 transport aircraft on 28 Mar. 2017

3月30日(木)、美保基地(司令 北村靖二 1等空佐)において、C-2 配備記念式典が行われた。C-2 は現有輸送機 C-1 の後継機として、平成 13 年度から開発が行われ、昨年度末に開発を完了し、3月28日に量産1~3号機が美保基地に配備された。全長 43.9m、全幅 44.4m、全高 14.2m の大きな機体で航続距離は貨物重量 20トンで約 7,600km である。

式典は、1月に新設された格納庫の前で、北村司令に対する搭乗員の空輸完了報告で開始された。式典には内外から多数の来賓と関係者が参列し、米空軍からも第5空軍運用計画部長ジャンソズ大佐 (Col. Juris Jansons)、第374医療群司令モンテヤーノ大佐 (Col. Angela Montellano)も駆け付けた。北村司令は式辞の中で「待望の C-2 輸送機が当美保基地に正式に配備され、自衛隊の新たな輸送機の時代が切り開かれようとしている」「わが国の平和と独立を守る自衛隊の総合力を発揮させるために、航空輸送力の強化は喫緊の課題であり、今後、統合機動防衛力の構築を推進していく中においてもこの C-2 型輸送機が果たす役割はとて重要なものである」と述べ、更に「各種

事態や災害等への迅速な展開・対処能力を確保するとともに、国際平和協力活動等における空輸任務を1日も早く行えるようにすることが期待されている」と述べ、C-2 型輸送機の戦

力化に向けた美保基地隊員の「不断前進」の気概を示した。今後は、美保基地第3輸送航空隊で平成30年夏頃まで運用試験が行われ、その後本格的な部隊運用が開始される予定である。 (参考:美保基地 HP、早坂理事記)



Ceremony to mark the deployment of three C-2 aircrafts was held in Miho AB on 30 Mar.



Squadron Mark is displayed on C-2 ; “the White Hare of Inaba” and “Okuninushi (a Shinto deity)” from a mythology



C-2 was on view for the attendance to Miho Air Festival on 28 May

米国での空自F-35A操縦訓練の開始 The start of JASDF F-35A pilot training in the U.S.

2月7日(火)、アメリカ合衆国アリゾナ州ルーク空軍基地においてF-35Aの米国委託教育を受講中の中野2等空佐がF-35Aによる初飛行を実施した。

ルーク空軍基地では操縦士と整備員に対する教育訓練が行われている。また、航空自衛隊向けの3号機が1月26日にルーク基地に到着し、以後、逐次ルーク基地にフェリーされる。(参考:空幕HP)

初飛行を行った中野2佐は、平成29年度からの三沢基

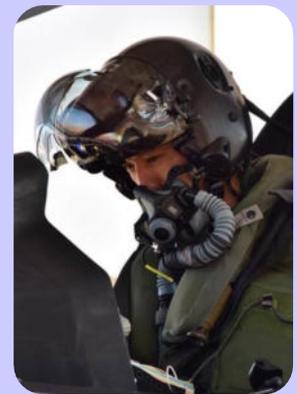
地「臨時F-35A飛行隊」(仮称)の部隊建設に携わり、F-35Aの飛行教官として後輩の育成に当たる予定である。空自は、平成30年度に正式な飛行隊を発足させ、平成32年度に2個目の飛行隊編成を目指す。

4月21日(金)、米太平洋軍司令官ハリス大將が米空軍ルーク基地を訪問し、航空自衛隊及び豪空軍の受講生達を激励した。

(参考:空幕HP・米空軍HP、早坂理事記)



A JASDF pilot makes the first F-35A takeoff from Luke AFB, Arizona on 7 Feb.



Lt. Col. Nakano, a trainee in USAF, makes a pre-flight check for the first F-35A flight



Admiral Harry B. Harris, Commander of PACOM, visits Luke AFB on 21 Apr. and encourages JASDF and Royal Australian Air Force members



Maintenance personnel encourage the JASDF F-35A pilot with the national flag of Japan



Safe return from the first flight

日米相互特技訓練を激励・支援 JAAGA cheers Japan-U.S. Bilateral Exchange Program

5月15日(月)、JAAGAは平成29年度日米相互特技訓練を激励するため、小野田理事長、中島理事及び早坂理事が空幕人事教育部長 井筒俊司空将補を表敬訪問した。

表敬においては、空幕教育課長寺崎隆行1等空佐、連合准曹会会長杉本孝哉准空尉及び教育課個人訓練班上治忠善准空尉が立会のもと、小野田理事長から井筒部長へ激励品目録を贈呈し、その後30分程度の懇談において、日米相互特技訓練を激励した。懇談において、井筒部長から、「この度の訓練に対する御支援はもとより、様々な分野での空自現役隊員の活動への物心両面にわたるJAAGAからの御支援に対し大変感謝申し上げます。本特技訓練も従来の部隊研修に比し、日米双方の特技能力向上による日米共同対処能力の基盤強化及び現場レベルでの相互理解をさらに深めるなどの成果が徐々に表れつつあると評価している。また隊員の英語に対する動機付け及び更なる能力向上に大いに役立っていると感じている」と謝意が示された。これに対し、小野田理事長は、「JAAGAの支援が現役隊員の皆さまのお役に立てていると評価していただき大変うれしい。昨今は、JAAGAの様々な活動が日米隊員の現場レベルばかりでなく、在日米空軍関係者やそのOB、更には外務省の日米関係者や首相官邸からもその活動を認められつつあると感じている。今後もJAAGAは日米連携の強化につながる実務レベルの交流を微力ながら側面から支援していければと思う」と激励した。

6月7日(水)、米空軍横田基地において山崎副理事長、中島理事及び福永理事が第5空軍司令官マルチネス中将(Lt.Gen. Jerry P. Martinez)を表敬訪問し、米空軍下士官の参加及び空自隊員の訓練受け入れの



JAAGA Chairman Onoda, Director Nakashima and Hayasaka call on Maj. Gen. Izutsu, Col Terasaki and W.O. Sugimoto, ASO on 15 May 2017 to cheer JASDF-NCO participants



JAAGA Vice Chairman Yamazaki and Director Nakashima call on Lt. Gen. Martinez, CMSgt. Greene and SMSgt. Lewis, 5AF on 7 Jun. 2017 to encourage USAF-NCO participants

諸活動を激励するとともに、JAAGAの活動への米空軍の理解と協力を謝意を伝えた。表敬には、第5空軍副司令官ウィンクラー准将(Brig. Gen. Michael P. Winkler)、グリーン最先任上級曹長(CMSgt. Terrence A. Greene)及びルイス先任曹長(SMSgt.

平成29年度日米相互特技訓練計画

空自受入基地 (trainig base)	期 間 (period)	参加人員 (participants)	空自差出基地 (training base)	期 間 (period)	参加人員 (participants)
築城基地 (Tsuiki AB)	2017. Oct.	10 (USAF)	横田基地 (Yokota AFB)	2017. May 31 ~Jun. 9	15 (JASDF)
岐阜基地 (Gifu AB)	2017. Sep.	10 (USAF)	三沢基地 (Misawa AFB)	2017. Sep. 6 ~Sep. 15	8 (JASDF)
浜松基地 (Hamamatsu AB)	2018. Jan. -Mar.	10 (USAF)	嘉手納基地 (Kadena AFB)	2017. Nov. 20 ~Nov. 30	15 (JASDF)
—	—	—	三沢基地 (Misawa AFB)	2017. Dec. 6 ~Dec. 15	7 (JASDF)

Gabriel Lewis) が同席し、本訓練について、日米双方に友情が育まれるとともに、仕事の上でも向上が図られてとても有意義であるなどの所見とJAAGAの活動に対する謝意が述べられた。

日米相互特技訓練は、平成7年度からその前身である「日米相互部隊研修」として日米相互の理解及び友好を深めるとともに、英語能力向上の動機付けを目的として開始され、これまで在日米空軍と航空自衛隊との間で約300名以上の研修を実施した。平成26年度に現在の名称に変更され、27年度に事業化された。平成29年度の日米相互特技訓練は、多様な特技、環境による訓練や下士官の資質向上を重視し計画されており、早速、5月31日から米軍横田基地へ空自隊員15名を差し出しての訓練が行われる。(早坂・福永理事記)

米空軍下士官の空自基地受け入れ

海栗島分屯基地 (Unishima Sub AB) 第19警戒隊 2等空曹 新井 誠 Training Impressions

平成29年2月22日から2月28日の間、海栗島分屯基地(司令 藤井浩 2等空佐)において日米相互特技訓練に伴う部隊研修(在日米空軍特技員の短期受入れ)が実施された。海栗島分屯基地において在日米空軍下士官の受入れは前例のないことであり、この貴重な訓練に参加できることがとても光栄であり、自分の英語力がどこまで通じるか実践できるまたとない機会であった。受入れに際して、部隊では、分屯基地司令による事前英語教育及び各種特技研修の綿密な準備や調整を実施し、本訓練を存分に行えるよう十分な態勢を整えた。

初日は、概況説明から始まり、各特技職に分かれての研修では、設備機械特技員として、1日目に加工作業として溶接や切断作業を行い、点検口の蓋を作成した。2日目は木工作業を見学してもらい、バーナーによる焼き

目の模様入れを披露したところ、米空軍下士官は非常に興味深く観察していた。施設小隊班員との談議では、米空軍下士官が自分達の仕事風景を写真で展示する等、活発な意見交換が行われた。空自では作業時

には安全を考慮し複数人で実施するが、米空軍では1人で作業実施することが多々あると聞いた。また、特技試験においては知識を重視するのに加え、状況判断を必要とする設問があるという事を聞く事もできた。

課業外における懇親会や島外研修では、周囲が海に囲まれている当分屯基地の特性を活かした釣りを楽しみ、豊(とよ)砲台(ほうだい)跡地、韓国展望所をはじめとした対馬島内の史跡研修のなか、海岸線から韓国を臨むことが出来る場所に位置する海栗島が、辺要の地であり国防の最前線であることについて理解を深めてもらった。文化体験として剣道や書道、茶道等を実際に経験してもらっ



TSgt. Arai and SSgt. Quibar deepen their relationship



Scene of specialty training

たが、中でも特に印象深かったのは、そば打ちであった。そば粉を練ったり均等に切ったりすることに、空自隊員とともに一喜一憂し、非常に楽しい時間を共に過ごすことができた。このような体験をしていくにつれて互いに打ち解け、積極的に会話を行えるようになっていった。「習うより慣れよ」と言うが、体験に勝るものはなく、多くの隊員が、英語を話すことへの意欲を増進させていた。最終日にもなると、在日米空軍下士官が話す内容を、円滑に聞き取れるようになっており、その変化には目を見張るものがあった。

この訓練で我々は日米の相互理解の重要性を理解す



Lt. Col. Hiroshi Fujii, Unishima Sub AB Commander welcomes USAF participants represented by TSgt Eric Williams, 374th Security Force Squadron

るとともに、英語を話す楽しさを見出すことが出来た。短い期間であったが、私は本訓練で米空軍下士官と信頼関係が築けたと感じた。それは単に同種特技としての対番者として過ごしたからではなく、それぞれの国を守る人間であるということをお互いが認識したからだと感じた。

最後に、在日米空軍下士官からの「今度は横田基地に研修に来てもらいたい」との言葉を受けたため、その機会があれば、是非希望したい。そして、本訓練での貴重な経験を、今後の自衛隊生活に活かしていく所存である。
(了)



Several scenes of physical training, cultural events in Unishima Sub AB and excursion in Tsushima



沖縄地区における日米下士官交流の進展（地域貢献活動を通じて） Progress of Japan-U.S. NCO Exchange Program in Okinawa

那覇基地第9航空団と嘉手納基地第18航空団は、地域貢献活動を通じた日米下士官交流を一層活性化させている。昨年9月2日の第1回交流以後の活動概要は次のとおりである。平成29年度も日米下士官交流が活発に行われることが期待できる。

○H28.10.9 北谷サンセットビーチで両基地の隊員と家族合わせて約60名が清掃ボランティア

○H28.10.18 第2回日米下士官交流において活動の具体的な内容や日程について意見交換

○H28.11.19 日米下士官交流の一環として平和記念

公園において日米合わせて家族連れ80名が参加し清掃ボランティア

○H28.12.8 那覇市の育英義塾幼稚園において両基地の隊員で英語の授業を支援

○H29.2.10 嘉手納基地において20名の准曹士隊員が招待され「18航空団と9航空団の未来」について語る交流会を実施

○H29.4.27 平成28年度最後の交流、「これまでの反省と今後の活動」について嘉手納基地でミーティング

（参考：那覇基地 HP、早坂理事記）

9 Oct. 2016

Volunteer activity to clean up Chatan Sunset Beach



18 Oct. 2016

The second exchange meeting to coordinate activities and schedule



19 Nov. 2016

Volunteer activity to clean up Peace Memorial Park



8 Dec. 2016

Assisting English education by JASDF and USAF NCOs at Ikueigijuku Kindergarten in Naha



10 Feb. 2017

An exchange meeting, in Kadena AFB, to discuss the future of 18th Wing and 9th Air Wing



27 Apr. 2017

The last exchange meeting of FY2016, in Kadena AFB, to discuss “review and future plan of activities”



平成28年度日米優秀隊員表彰 JAAGA AWARD for JASDF & USAF Brilliant Soldier in FY 2016

平成28年度JAAGA日米隊員表彰式が、2月、那覇、横田、三沢の空自基地において行われた。本表彰行事は平成10年度から開始されて以来19回目となり、表彰者数は総計133名(空自76名、米空軍57名)を数えた。

— 沖縄地区表彰式 — Okinawa area

2月3日(金)、平成28年度沖縄地区JAAGA表彰行事が那覇基地で実施された。表彰式は基地講堂において、祝賀会は基地隊員食堂において実施され、空自からは南西航空混成団司令武藤茂樹空将、第9航空団司令川波清明空将補以下230名の隊員、米空軍からは第18航空団司令バリー・コーニッシュ准将(Brig. Gen. Barry R. Cornish, Commander, 18WG)以下21名の将校・下士官そして那覇基地協力者として小緑地区自衛隊親睦会会長新垣吉浩氏他3名にご来臨頂き、岩崎会長以下5名のJAAGAメンバーを含めた総勢259名の参加者を得て開催された。

表彰式は、南西航空音楽隊による日米国歌の演奏か

ら始まり、続く岩崎会長の挨拶では、平素のわが国の安全保障への貢献に対する日米両部隊へのお礼、本表彰事業の意義、被表彰者への祝意と感謝、そして本表彰行事に係る多くの関係者、特に那覇基地の積極的なご協力、ご支援に対するお礼が述べられた。

今年度の空自側被表彰者は第9航空団基地業務群通信隊の山下雄司2等空曹で、地上無線整備員として第18航空団通信中隊隊員との共同作業等を通じて日米相互の特技能力向上に尽力するなどの功績が認められた。また米空軍側被表彰者は第18航空団のブランドン・クルーパー大尉で、交換幹部として、卓越した英語、日本語能力をもって、日米の重要な会議や空中給油部隊、医療部隊での通訳調整や、航空自衛隊英語弁論大会における審査などに貢献するなどの功績が認められた。

岩崎会長は日米の被表彰者に表彰状と記念楯を授与し、被表彰者の功績を称えた。

その後、空自代表の川波基地司令と米空軍代表のコーニッシュ団司令から祝辞があり、日米両国の協調がこの地域の安定と繁栄に寄与していること、そして空自と米空軍との間の「絆」強化の重要性、被表彰者の活動が仲間意識と団結を強化していることなど、被表彰者へのお祝



At JAAGA Award Ceremony in Naha AB on 3 Feb. 2017, 24 people, including President Iwasaki, Lt. Gen. Muto, Maj. Gen. Kawanami and Brig. Gen. Cornish are in line. TSgt. Yuji Yamashita, JASDF and Capt. Brandon Krupa, USAF are commended

いと敬意の言葉が述べられた。

祝賀会においては、まず沖縄県隊友会会長の藤田博久氏からのご祝辞と乾杯があり、日米出席者が、和気藹々と受賞者を称える温かな雰囲気の中、祝賀会となった。最後に、沖縄県防衛協会青年部会会長 大宜見朝雄氏のご祝辞、乾杯で表彰式の一連行事が終了した。

これもひとえに、ご尽力いただいた那覇、嘉手納両基地の関係各位のお陰と心から感謝を申し上げる。

— 関東地区表彰式 — Kanto area

2月10日(金)、平成28年度関東地区JAAGA表彰行事が空自横田基地において実施された。

表彰式は基地講堂、記念植樹は将官宿舎東屋周辺、祝賀会食は将官宿舎レセプションルームにおいて開催され、空自からは航空総隊司令官前原弘明空将、航空戦術教導団司令佐藤信知空将補、作戦システム運用隊司令兼横田基地司令鎌田修一1等空佐、電子実験群司令吉田悌也2等空佐、第2輸送航空隊整備群司令池田武2等空佐をはじめ62名、米空軍からは第5空軍参謀長ジーン・アイゼンハット大佐 (Col. Jean K. Eisenhut, Chief of Staff, 5AF)、第374空輸航空団医療群航空医学中隊長ウッドラフ空軍中佐 (Lt. Col. Richard Woodruff, Commander of the 374th

Aerospace Medical SQ)、第374医療群前任空曹ディビットソン曹長をはじめ10名、そして横田基地周辺協力者として横田基地協力会会長山下真一氏、横田基地OB会会長糸永正武氏他計10名のご来臨を頂き、岩崎会長以下3名のJAAGAメンバーを含めた総勢85名の参加者を得て実施された。

表彰式は、岩崎会長から空自及び米空軍の活動に対する謝意と平素のJAAGAの活動へのご支援に対する感謝、そして本表彰行事に係る関係者、特に横田基地による積極的なご協力、ご支援に対する謝辞が述べられた。

今年度の空自側被表彰者は、航空戦術教導団の山田知美1等空曹(空自横田基地)、電子開発実験群の上田順一准空尉(府中基地)及び第2輸送航空隊の大隅政法3等空曹である。山田1曹は横田基地太鼓部及び横田蒼空会(よさこい部)のメンバーとして、日米の様々な文化交流行事等に積極的に参加するなどの貢献、上田准尉は様々な交流行事等において通訳を積極的に務め、府中基地所在准曹士先任と横田最上級先任下士官グループとの交流を積極的に図るなどの貢献、大隅3曹は様々な交流行事等において高い英語能力を発揮し、特に横田基地スペシャルオリムピックス及び横田ストライダーズ駅伝における通訳支援などに貢献したことなど、それぞれ日米各種交流行事での積極的な貢献や日米関連事業での活躍が認められたものである。また米空軍



At JAAGA Award Ceremony in Yokota AB on 10 Feb. 2017, 28 people, including President Iwasaki, Lt. Gen. Maehara, Col. Kamada, Col. Eisenhut are in line. W.O. Junichi Ueda, MSgt. Tomomi Yamada, SSgt. Masanori Ohsumi, JASDF and MSgt. Cristian Martinez, USAF are commended





Tree-Planting Ceremony praying trilateral firm relationship among JAAGA, JASDF and USAF

側被表彰者は、第 374 空輸航空団のクリスティアン・マルティネス曹長(米軍横田基地)である。「横田英会話交流プログラム」を立ち上げて多くの隊員の英会話能力の向上に貢献し、また航空自衛隊の

き、その後 4 人の被表彰者から、それぞれ今回の受賞を光栄に思うこと、支えてくれた上司、同僚、家族への謝意、そして今後も一層日米関係強化のため尽力するとの決意が表明され、関東地区 JAAGA 表彰行事は有意義かつ楽しい雰囲気の中で幕が閉じられた。

横田基地のスタッフ、大勢の基地隊員にご支援をいただき、本当に感謝を申し上げます。

— 三沢地区表彰式 — Misawa area

2 月 24 日(金)、平成28年度三沢地区 JAAGA 表彰行事が空自三沢基地において実施された。

米空軍将校クラブにおいて表彰式が、基地幹部食堂において祝賀会が実施され、空自からは北部航空方面隊司令官城殿保空将、同副司令官深瀬尚久空将補、第 3 航空団司令兼三沢基地司令今城弘治空将補以下 30 名が、米空軍三沢基地からは第 35 戦闘航空団司令スコット・ジョーブ大佐(Col. R. Scott Jobe, Commander 35th FW)以下 10 名が出席され、また三沢基地周辺協力者からは三沢市防衛協会会長野坂篤氏他 4 名のご来臨を頂いて、渡邊副会長以下 4 名の JAAGA メンバーを含めた総勢 48 名の式典となった。

表彰式は北部航空音楽隊による日米国歌の演奏から始まり、続いて渡邊副会長が挨拶し日本を取り巻く厳し

職場訪問を企画して、米空軍人に対して日米相互運用性や任務への自覚、自衛隊や地域の文化への理解を促進するなどの貢献が功績として認められた。

岩崎会長は、日米 4 人の被表彰者にそれぞれ表彰状と記念楯を授与し、その功績を称えた。また、佐藤戦術教導団司令、吉田電実群司令、池田 2 輪空隊整備群司令及びウッドラフ航空医学中隊長の 4 人から、被表彰者を称える旨のご祝辞を頂いた。

その後、基地内東屋周辺にて、前原総隊司令官、受賞者及び岩崎会長などで記念植樹を行った。

祝賀会食においては、先ず横田基地協力会会長の山下真一氏からご祝辞を頂くとともに乾杯の音頭をとって頂



At JAAGA Award Ceremony in Misawa AB on 24 Feb. 2017, 23 people, including Vice President Watanabe, Lt. Gen. Kidono, Maj. Gen. Fukase, Maj. Gen. Imaki and Col. R. Scott Jobe are in line. SSgt. Sumiko Kikuchi, JASDF and SMSgt. David Allshouse are commended

い国際環境と信頼に基づく日米同盟強化の益々の必要性、日米の部隊の平素の活動に対する敬意と謝意、表彰行事の目的の紹介及び JAAGA の活動への積極的なご協力、ご支援に対する謝辞と今後なお一層のご理解、ご協力をお願いする旨の挨拶が述べられた。

今年度の三沢基地における空自側被表彰者は、三沢気象隊菊地寿美子 3 等空曹で、様々な交流行事等において、特に三沢基地航空祭、三沢基地綱引き大会、下士官交流会「ダイニングアウト」などでの通訳業務などでの貢献した功績が認められたものである。また米空軍側被表彰者は、デビッド・オールショウス曹長で、航空自衛隊要員の F-35A 導入準備教育に関わるとともに、米空軍人に航空自衛隊や地元の伝統文化に触れさせるための相互訪問プログラムを主導するなど、第 35 戦闘航空団の日米共同協力チームの主要メンバーとして精勤するなどの貢献などの功績が認められたものである。

渡邊副会長は、日米の被表彰者にそれぞれ表彰状と記念楯を授与するとともにその功績を称えた。今城基地

司令からは被表彰者へのお祝いの言葉とともに、「三沢基地は日米友好を象徴する基地であり、友好親善に寄与した隊員を表彰してもらうことは特に意義深いことである」との祝辞があった。また、ジョーブ司令からは二人の被表彰者の功績を称えつつ、日米友好に努力している現場の隊員達をはじめ JAAGA に対する謝辞が述べられた。

表彰式後の懇親祝賀会は、三沢つばさ会会長の倉持昌郎氏の音頭により、更なる友好親善を祈念して乾杯で開始された。その後、日米の被表彰者から挨拶が行われるなど有意義かつ暖かい雰囲気の中で進行された。最後に JAAGA 三沢支部丸山支部長の乾杯の発声をもって三沢地区 JAAGA 表彰行事は幕を閉じた。

三沢基地の日米のスタッフ及び大勢の三沢基地関係者各位に対し、心から感謝を申し上げる。

本当に有難うございました。 (岩成理事記)

(日米優秀隊員の一覧表を P20 に掲載)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

第9航空団司令から第18航空団副司令への感謝状贈呈式 Appreciation for Vice Commander of 18th Wing by Commander of 9th AW

5 月 11 日 (木)、第 9 航空団司令部において、第 9 航空団司令兼那覇基地司令川波清明空将補から 18 航空団副司令クリストファー・R・アムライン大佐 (Col. Christopher R. Amrhein, Vice Commander, 18thWG) へ感謝状及び防衛協力章が贈られた。本感

謝状等は、アムライン大佐の離日 (6 月 15 日) に伴い、その在職中における日米連携強化と相互理解への多大なる貢献に対して贈られたものである。

(参考: 那覇基地 HP、早坂理事記)

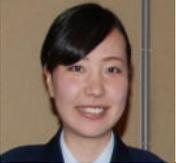
※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※



Defense cooperation reward medal

Col. Christopher R. Amrhein, Vice Commander of 18th Wing, was presented Letter of appreciation and Defense cooperation reward medal by Maj. Gen. Kawanami, Commander of 9th Air Wing, on 11 May in advance of his departure on 15 Jun., for his great contributions to strengthening coordination and mutual understanding between JASDF and USAF

— 受賞者及び功績の概要 —
JAAGA AWARD Recipients and their Achievements

部隊	受賞者	功績の概要
三沢 気象隊 (三沢) Misawa		様々な交流行事等で卓越した英語能力を発揮し、特に三沢基地航空祭 三沢基地綱引き大会、下士官交流会「ダイニングアウト」及び日米夫人の交流会「みどり会」などでの通訳業務などに貢献。 Showed outstanding English speaking skills in supporting as an interpreter in various Japan-U.S. interchange events in Misawa AB, such as Air Festival, Tug of War Meeting, Bilateral NCO Exchange Party "Dining-out" and Officers' Wives' Exchange program "Midorikai".
	3等空曹 菊地 寿美子 SSgt. Sumiko Kikuchi	
電子開発 実験群 (府中) Fuchu		様々な交流行事等で通訳を積極的に務め、群准曹士先任として府中基地所在准曹士先任と横田最上級下士官グループとの交流を積極的に図るなど貢献。 Served as an interpreter in various Japan-U.S. interchange events and, as the SEA of the Electronics Development and Test Group, pushed interchange forward between Fuchu and Yokota senior NCO groups.
	准空尉 上田 順一 W.O. Junichi Ueda	
航空戦術 教導団 (横田) Yokota		横田基地太鼓部及び横田蒼空会(よさこい部)のメンバーとして日米の様々な文化交流行事等に積極的に参加し貢献。 Positively and actively participated in various Japan-U.S. cultural exchange events and showed performances as a member of Yokota AB Drum Club "Yokota Musashi Daiko" and Yokota Yosakoi-Soran Dance Team "Blue Sky (Sokukai)".
	1等空曹 山田 知美 MSgt. Tomomi Yamada	
第2輸送 航空隊 (入間) Iruma		様々な交流行事等で高い英語能力を発揮し、特に横田基地スペシャルオリンピックス及び横田ストライダーズ駅伝における通訳支援などに貢献。 Showed outstanding English speaking skills in supporting as an interpreter in various Japan-U.S. interchange events, such as the Special Olympics at Yokota AB and the Ekiden Run, hosted by Yokota Striders Running Club.
	3等空曹 大隅 政法 SSgt. Masanori Ohsumi	
第9航空団 (那覇) Naha		地上無線整備員として様々な交流行事等、特に日米相互特技訓練において、第18航空団通信中隊隊員との共同作業等を通じて日米相互の特技能力向上に努めたほか同訓練の受け入れにおいても通訳として活躍するなど貢献。 Showed outstanding skills in various interchange events as a ground radio maintenance technician, in particular, made an effort toward specialty development with the counterparts of the 18th Communication Squadron, also played an active role as an interpreter during the Japan-U.S. Bilateral NCO Exchange Program.
	2等空曹 山下 雄司 TSgt. Yuji Yamashita	
第35戦闘 航空団 (三沢) Misawa		航空自衛隊要員のF-35導入準備教育に関わるとともに 米空軍人に航空自衛隊や地元の伝統文化に触れさせるための相互訪問プログラムを主導するなど第35戦闘航空団の日米共同協力チームの主要メンバーとして貢献。 Worked diligently as a key member of the 35th FW's Bilateral Relations Team, directly involved in working to prepare key JASDF personnel for future mission challenges associated with F-35 acquisition and led cross visit program between two Forces to provide US Airmen the experience of JASDF military traditions as well as Japanese local culture .
	SMSgt. David Allhouse 先任曹長 デビッド オールショウス	
第374空輸 航空団 (横田) Yokota		「横田英会話交流プログラム」を立ち上げて多くの隊員の英会話能力の向上に貢献するとともに、航空自衛隊の職場訪問を企画して米空軍人に対して日米相互運用性や任務への自覚、自衛隊や地域の文化への理解を促進するなど貢献。 Created the "Yokota language exchange program" to enhance English language proficiency, and coordinated workplace visits to enhance interoperability and mission awareness and provided US Airmen the experience of JASDF military traditions as well as Japanese local culture.
	MSgt. Cristian Martinez 曹長 クリスマン マルティネス	
第18航空団 (嘉手納) Kadena		交換幹部として様々な交流行事等において遺憾なくその技能を発揮し、特に卓越した英語、日本語能力をもって、日米の重要な会議や空中給油部隊、医療部隊での通訳調整や、航空自衛隊英語弁論大会における審査員などで貢献。 Showed utmost skills in Japan-U.S. various interchange events as an exchange officer, especially, with outstanding conversation skills in English and Japanese, contributed to important bilateral conferences, Air Refueling and Medical unit meetings by providing interpretation, and served as an judge at JASDF English Competition.
	Capt. Brandon Krupa 大尉 ブランドン クルーパー	

JAAGA講演会:空幕防衛部長 Lecture for JAAGA members by Maj. Gen. Uchikura on 16 Feb. 2017

【 空幕防衛部長の講演概要 】

2月16日(木)、14時から約2時間にわたり、グランドヒル市ヶ谷「芙蓉の間」において、航空幕僚監部防衛部長内倉浩昭空将補を講師としてJAAGA講演会が開催された。今回は「周辺国の情勢と航空自衛隊」と題して、南西域をはじめ日本を取り巻く各種安全保障



Guest speaker Maj.Gen. Hiroaki Uchikura, Director, Defense Planning and Policy Department, ASO, gives a lecture on “The situation of neighboring countries, and JASDF”

環境の変化を捉えつつ、航空自衛隊が直面する状況を見据え、丁寧な語り口により、その現状と課題が語られた。講師は防大31期生で職種は戦闘機パイロットであり、空幕防衛部防衛課長、5空団司令、総隊司令部防衛部長、統幕防衛計画部副部長を歴任、28年7月より現職にある。

【 講演内容 】

I 我が国周辺の動向

まず、日本の安全保障に係る周辺動向が大きく変化する中で、その変化を時系列で整理し、その変化が日本に与える影響について講師の見解を交えて説明した。

北朝鮮の核実験・弾道ミサイル等の動向、中国による東シナ海及び南シナ海における諸活動(西沙・南沙諸島)、ロシアの北極圏を念頭に置いた戦略展開等、その概要について一つ一つ具体的事象・案件を踏まえ語ったが、いずれも激しい安全保障環境とその渦中で任務を遂行する空自の姿を如実に示す内容であった。

日本周辺空域における中国やロシアの航空機等活動の活発化に話が及んだ際は、往年の「空の防人」を任ずるOB等聴講者達の肩に力が入ったためか、その様子を察して、講師自ら「少し背伸びでもしますか」と述べ、会場の雰囲気や和らげ話を進めた。

II 我が国及び同盟国の取り組み

我が国及び同盟国の取り組みについては、安倍総理の主導する首脳外交や国家安全保障局の設立、新たに制定された新ガイドライン、安全保障関連法制等の施策、及び、同盟国たる米国のピボット・リバランス政策におけるアジア太平洋地域への関与推移、そしてトランプ政権移行後の日米首脳会談に至るまでの状況について概観した。

その様な日米同盟関係の深化に併せ、空自と米空軍の関係も戦略・戦術・作戦レベルで重層的かつ緊密な連携が取られていると述べた。各種の連携内容を紹介したが、特に強固な信頼関係に基づく日米エアーパー間の人的交流について言及した。

この一例として、空幕長等によるハイレベル協議で培った信頼関係により、東日本大震災で影響を受けた松島基地 F-2B の戦闘機操縦課程の一部を米空軍 F16 課程で代替する事が可能になった事例を紹介した。

また、日本の勤務を経験し空自との親密な関係を醸成した陣容が、現在、米軍の枢要な職にあると述べ、太平洋空軍司令官オショネシー大将(元三沢基地司令)、空軍宇宙コマンド司令官レイモンド大将(元5空軍副司令官)、統合参謀本部 J3ドーラン中将(前5空軍司令官)、空軍参謀本部 A5/8 ハリス中将(元5空軍副司令官)の名前を挙げた。特に、講師自身が尉官時代(2空団勤務)、日米共同訓練のためアラスカから飛来し共に訓練を実施したのが若き日のハリス大尉であり、現在、日米間で同様の職責を負う立場にある縁と奇遇について披露した。

更に、これまで、米空軍参謀本部の常設連絡官は英国・オーストラリア等だけであったが、日米司令部間の連携強化の施策として1等空佐の連絡官を派遣し、太



JAAGA members listen to the lecture enthusiastically and respectfully

平洋空軍司令部にも1等空佐以下4名の連絡官チームの体制を取り、人的ネットワークの密度がより増している」と述べた。

III 空の特性と航空自衛隊の役割

航空防衛力とは航空優勢を確保することにより全自衛隊の運用環境を整える公共財であると定義し、現代の輸送路としての「空」の特性を踏まえつつ空の安心・安全を守ることの意義・重要性と空自の役割について説明した。空自の役割において特に重要な事項として領空主権の確保を挙げ、警察・海保による警察権の行使を間に挟む「陸」「海」の状況と異なり、「空」においては対領空侵犯措置により空自が全面的に対処する役割の厳しさを語った。

スクランブルの発進回数が冷戦期の最多回数に迫る等、報道される事も多くなったが、大切なのは領空侵犯をさせない事であり、高圧的とも言える対応を継続させる国に対しては、抑制した対処の中にあっても、その時々状況に応じて適切な対応を取ることが緊要であると述べた。

IV 航空自衛隊の体制と主な活動等

広範多岐にわたる空自の体制と活動について、領空主権確保の諸活動に続き、BMD 対処、国際平和協力、特輸機の任務運航と説明を進めた。防衛協力・交流の説明では、日英空軍間初めての訓練や AFFJ(Air Force Forum in Japan) 2016 においてアジア太平洋地域の空軍参謀長等を招へいた際にミャンマーからも参加を得た等のトピックスを含め、多くの国々との交流内容を紹介した。

更に、東南アジア諸国空軍との防衛協力・交流として「能力構築支援」を挙げ、ADA(Air Domain Awareness)を確立出来る能力の構築に関し支援を行っている」と述べ、今後は、国際ルールに基づく空自の取組を地域のスタンダードとし、地域全体の安全保障環境の安定化を図っていききたいと語った。

宇宙利用の推進に係る取り組みについても言及があり、スペースデブリ等の宇宙物体を監視する宇宙状況監視について説明し、防衛省が主導的役割を担う事をあらた



Participants ask questions in various points of view after lecture

めて認識する内容であった。

空自幹部のアカデミックな活動として、幹部学校航空研究センターの研究冊子「エアーパーワー研究」の発行を挙げ、空自幹部の論文発表を通じて「知」の蓄積と活用の端緒として意義ある活動と述べた。

V 航空自衛隊の課題

空自が努力すべき具体的事項として、航空防衛力を発揮する上で脅威となる対象や問題となる事項を見据えつつ、今後、対処すべき課題を整理し列挙した。「巡航ミサイル対処」「情勢変化に応じた警戒監視体制の整備」「F-2 後継機の検討」「航空輸送力の整備」「調達・維持コスト増加への対応」等々、10 数項目が挙げられたが、特に強調した課題は女性自衛官の活動をサポートする環境の整備であった。

現在は空自隊員数に占める割合が6～7%の女性自衛官を、将来的に10%まで拡大するにあたって、SORAJO(空女)達が安心して任務に打ち込める環境の整備が喫緊の課題であると語り、入間基地に託児所が開設された事を紹介した。

新島襄が進取の気概を有する妻八重をハンサムウーマンと称したごとく、これからのSORAJO 達は澁淵と任務を遂行し空自の一翼を担う事が期待されており、その活動を支える各種施策は大変重要と語った。

これらの山積する課題を一つ一つ着実に解決していくことが、日本の航空防衛力を進化発展させるために大切と述べ、むすびの言葉として、空自は空の守りにおける「常設の日本代表」とであると語り、空自のあるべき姿を総括した。

【 質問及び会長の言葉 】

2時間弱の講演の後、聴講者から「統合運用」「戦闘機のベストミックス」に係る質問がなされたが、いずれも現下の厳しい状況に対する問題認識と前進する空自に想いを込めたものであり、講師からもそれらの課題に係るビジョンと努力の方向性が語られた。

最後に、岩崎会長から、「空自の現状と課題に係る丁寧かつ具体的な説明」に対する謝辞と共に、空幕防衛部長の職にある講師を労い自愛を祈念する旨、閉めの挨拶がなされ講演会を終了した。(杉山(伸)理事記)



JAAGA President Iwasaki shakes hands with Maj. Gen. Uchikura, guest speaker, for thanks

平成28年度JAAGA三沢基地研修 JAAGA Members' Visit to Misawa AB on 9 ~10 Mar. 2017

【全般】

3月9日、10日の2日間 JAAGA 会員の三沢基地研修が行われた。研修は一部変更事項があったが大きな問題はなく、多くの成果を得るとともに日米の親睦を深める機会とすることができた。

研修団は、団長に山崎剛美副理事長、副団長に関輝夫氏及び長瀬正人氏の2名、三沢からの参加者1名を含め、正会員10名、賛助会員19名(法人9名、個人10名)及びJAAGA理事5名の合計34名で編成された。なお、三沢支部から山本事務局長が夕食懇親会に参加した。

第一日目は、航空自衛隊の研修が計画され、三沢基地概況説明、航空機研修、三沢基地主要幹部との会食(基地幹部食堂での体験喫食)及び北部航空方面隊司令官の講話が実施された。また、研修団長及び副団長が北部航空方面隊司令官城殿保空将、第3航空団兼三沢基地司令今城弘治空将補及びスコット・ジョーブ第35戦闘航空団司令(Col. R. Scott Jobe, Commander, 35FW)を表敬訪問し、日頃のJAAGAの活動に対する協力支援及び本研修の受け入れに対する感謝の意を伝えた。

夕食には、日米の主要幹部等を招待し、米軍基地クラブにおいてJAAGA主催夕食懇親会を開催した。研修

団は、懇親会終了後は米軍基地内の宿泊施設(三沢INN)に泊まり第一日目を終えた。

第二日目は、米空軍の研修が計画され、米軍基地クラブにおいて朝食をとった後、概況説明、F-16戦闘機とその装備品、AFN放送局及び弾薬作業所施設等を研修した。終了後、米軍基地クラブで昼食のハンバーガーを楽しみ、空自基地売店に立ち寄ってお土産購入後、C-1輸送機にて空路、入間基地に戻った。

入間基地空輸ターミナルにおいて解団式を行い、山崎団長及び関、長瀬副団長から、「空自、米軍及び地域が一体となって取り組んでいる実態とその絆の強さを感じることができた」等、所見及び参加者と関係者へ謝辞が述べられた。

最後に、平本代表理事から、「今回研修の準備及び実行にあたり、多大なるご支援をいただきました日米の受け入れ部隊の皆様と団長はじめとする研修団参加の皆様のお力添えとご協力に深く感謝申し上げます」と述べて多大な成果を収めて解散した。

【入間集合/結団式、C-1輸送機で空路三沢へ】

澄みわたった青空の当日朝、参加者34名は稲荷山ゲートに集合し、受付・人員掌握の後、入間基地空輸ターミナルへ移動して結団式及び搭乗手続きを行った。結団式においては山崎団長、関副団長、長瀬副団長の挨拶に引き続き、参加者全員が自己紹介を行い、少し緊張がみだった参加者たちから笑顔がみられるようになった。また部隊からは、中空副司令官南雲憲一郎空将補、入間基地司令中原茂樹空将補及び2輸空隊司令高橋和久1等空佐が見送りに来られ、搭乗までの間、団長、副団長らと三沢に配備される予定のF-35の話題に花を咲かせて和やかに懇談した。

C-1の運航はとてもスムーズで快適、同乗された高橋第2輸送航空隊司令のご配慮でコックピットの見学もさせていただいた(これが参加者に大好評で、帰りの便もお願いして参加者全員が見学した)。

【表敬訪問】

城殿司令官、今城団司令及びジョーブ団司令を表敬訪問し、日頃のJAAGAの活動に対する協力支援及び本研修の受け入れに対する感謝の意を伝えた

城殿司令官、今城団司令との懇談では、それぞれのお立場から着々と進んでいるF-35の受け入れ準備状況や昨年、初めて実施された日英共同訓練についての話を伺い大いに盛り上がった。

ジョーブ団司令は、昨年7月7日に着任されて日本は初めての勤務とのこと。任務の重要性を理解し、基地に



Courtesy call on Lt. Gen. Kidono, Commander of Northern Air Defense Force, and Maj. Gen. Fukase, Vice Commander at Misawa AB, JASDF



Enjoying the same lunch as JASDF members at the Officers Mess Hall, Misawa AB, JASDF

所在する陸軍・海軍の部隊、空自の部隊及び三沢市との関係の透明性を高めてチームで取り組んでいる。家族ともども価値観の似ている日本を楽しみたいと語っていた。F-16の今後の運用やF-35配備の可能性等の話題に花が咲いた。

【昼食会(体験喫食)】

城殿司令官、今城団司令、北部航空警戒管制団司令柿原国治空将補及び基地所在部隊長等13名のご出席を得て基地幹部食堂において昼食会が催された。

会食に先立ち、城殿司令官から「北の守りの緊張感を感じていただきたい、有意義な研修となるように協力します」とご挨拶をいただき、山崎団長から「この時期に三沢研修に来られること、温かい研修受け入れに感謝している」旨挨拶した。

献立は、過日行われた北空調理競技会準優勝の特別メニューで、会食・懇談が和やかに進められた。

【航空自衛隊三沢基地研修】

はじめに三沢基地概況説明をSOC/DC地区にある北部防空管制群会議室で受けた。三沢基地は米軍との共同使用基地で、広大な敷地もその66%は米軍使用区域、32%が共同使用区域で、空自専用区域はわずか2%であるなど、三沢基地の状況を理解することができた。

その後、大型バスに乗車し北部航空方面隊司令部総務班長志賀3佐の案内のもと、基地内を見学しつつ、航空機見学のために飛行場北側地区へ向かった。車中より、建設中のF-35A訓練講堂が見えた。外観は、ほぼ出来上がっていて、とても立派な施設に見えた。

次に、掩体地区において、F-2戦闘機及びE-2C早期警戒機を見学した。E-2Cは警戒航空隊司令古川義久1等空佐から警戒航空隊の概要について説明を受け、第601飛行隊長森2等空佐はじめ操縦者と機上兵器管制官からE-2C航空機の見学説明を受けた。F-2の見学では飛行主任福井2等空佐他F-2操縦者からF-2航空機および搭載装備品の概要について説明を受け、その後、全員が順番にコックピットに搭乗して戦闘機操縦者の気分を感じる貴重な機会となった。



Maj.Gen. Imaki, Commander of 3rd AW, proposes the last toast to JAAGA member at the friendship dinner at the Officers Club, Misawa AB, USAF



(↑)JAAGA members study and take photos before F-2 and E-2C, and (↓)listen carefully to JASDF Base Briefing at Misawa AB



【北空司令官 城殿保空将 講話】

城殿司令官から「F-35Aの受け入れ状況」及び「英空軍から学んだこと～英空軍の実力について～」という二つの内容で約30分間の講話を拝聴した。F-35Aの受け入れ状況については、F-35A配備計画の概要、米国委託教育の状況及び三沢基地の教育訓練用施設の状況などが説明され、順調に進捗していることが窺われた。また、昨年秋、三沢基地に展開した英空軍戦闘機「タイフーン」と実施した日英共同訓練(ガーディアン・ノース16)については、部隊の戦術技量の向上、英国空軍との相互理解促進、防衛協力の更なる深化という点で意義のある訓練で、現場部隊としては違和感なく訓練を実施できたとのことであった。また、訓練だけでなくスポーツや

アフターファイブの場での懇親を通じて相互の文化的交流ができたことも意義深いことであったとのことであった。

【JAAGA主催懇親会】

第一日目の夕刻、米軍基地クラブにおいて、招待者として城殿司令官はじめ空自三沢基地主要幹部等7名、ジョーブ団司令はじめ米空軍主要幹部等6名が出席してJAAGA主催懇親会を開催した。

ソーシャル・タイムで軽くウォーム・アップができた頃合いを見て、岩本理事の司会により、懇親会が始められた。最初に、山崎団長が主催者として本JAAGA三沢基地研修への温かいご支援と日頃のJAAGA活動への理解と協力に感謝の言葉を伝え、次に、城殿司令官から祝辞として歓迎の意と日米の絆の重要性、JAAGAの活動への感謝の言葉をいただいた。そしてジョーブ団司令の場を和ませるジョークと乾杯の発声で参加者全員が本会の盛会と日米相互の強い絆を祝福した。参加者は、三沢基地の日米の主要幹部と米軍基地クラブ・スタイルのディナーを楽しみながら、打ち解けて会話も弾み、お互いに理解を深めることができた。最後は、今城団司令による納杯の御発声により盛況なうちに懇親会を終えた。

【米軍三沢基地研修】

研修二日目は、米軍三沢基地研修が行われた。米軍基地クラブの朝食会場で朝食後、第35戦闘航空団司令部で副司令レックス大佐(Col. Travis D. Rex, VC, 35th FW)の講話及び概況説明を受ける予定であったが、場所を朝食会場に変更して副司令同席のもと報道部次長モリソン中尉による概況説明が行われた。米側が準備してくれた通訳を交えて丁寧な説明を受け、米軍三沢基地の役割、第35戦闘航空団の任務などを理解することができた。米軍三沢基地が米軍(陸海空軍)・空自



(↑)JAAGA members with Col. Travis D. Rex, Vice Commander of 35th FW, and (↓) Group Photo in front of F-16 at Misawa AB

(北空・3空団)・三沢市が一体となった Joint/ Combined Community Team として各種の事態に対応していこうとしている姿勢が印象的であった。

次に、研修団は2つのグループに分かれてバスに乗り、F-16戦闘機とその装備品、AFN放送局及び弾薬作業所施設見学等を見学した。当初計画されていたエンジン整備施設の見学は弾薬作業所施設の見学に変更となった。



Group photo of JAAGA Study Members to Misawa with Lt. Gen. Kidono, Maj. Gen. Fukase, Maj. Gen. Imaki and other officers at Misawa AB

三沢基地に配備されている F-16CJ は、”Wild Weasel” と呼ばれる敵防空網制圧 (SEAD) 任務が主任務であり、空対空兵装だけでなく対レーダーミサイルやレーザ・GPS による精密誘導兵器など多彩な兵装が展示されていた。

AFN 放送局では、ラジオ局とテレビ局を見学し、日頃、聴くことのある米軍放送がどのように制作・放送されているのか知ることができた。放送局施設の窓には鉄格子がはいり保全が厳重になされている様子が印象的であった。

弾薬作業所は、簡単には入ることのできない弾薬庫エリアにあり、分散して保管している弾薬を任務命令 (ATO) に基づいて組み立てる施設である。米隊員による、爆弾の信管をセットし組み立てる工程のデモを見学した。隊員たちのチームワークと仕事への誇りが感じられた。

研修の最後は、米軍三沢基地ゴルフコースのプロショップに立ち寄りお土産を購入し、米軍三沢基地研修を終えた。

基地内にはまだ真っ白な雪が残り、時々吹雪になる厳しい環境の中、頑張っている隊員たちの姿は信頼の強い絆を確信させてくれるものであった。

(福永理事記)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※



Scene of study at 35th FW, USAF
(↑)ammunition works (↓) AFN broadcasting



三沢基地研修所感

中村由美子氏
(個人賛助会員)

"Impression of Study"
Ms. Yumiko Nakamura

この度 JAAGA 個人賛助会員として入会させて頂いた中村由美子と申します。今回米軍三沢基地等研修会に初参加させて頂く機会を得る事ができました。この研修会は私にとって驚きの2日間でした。三沢基地に向かう C-1 型輸送機の離陸時の思ってもみない程のパワフルな加速にまず驚き、次に爆音は消えても会話は不思議と聞こえる効果抜群の耳栓に驚き、飛行中、特別見せて頂いたコックピットの計器に驚き、あのパワフルな離陸に比べ着陸時のスムーズだった事！見事なソフトランディングにも感嘆しました。三沢基地は想像以上に広く、常にバスで移動しました。周囲は桜並木に囲まれていて、桜の季節にはとても素晴らしい眺めになるのではないかと思います。基地館内には鳥居や立派な松の盆栽、掛け軸やお盆まで飾ってあり、米空軍の皆様が日本の文化を理解し、和の心を取り込んで楽しんでいる様子伺え嬉しく思いました。宿泊施設もゆったりとして充分くつろげました。空自の方々との昼食は、メニューコンクールで準優勝された時のものだそうです。地元の新鮮な野菜をたっぷり使ったお肉料理で、とろける半

熟卵とカリッと揚がったゴボウチップスのトッピングもバランスよく、とても美味しく頂きました。研修時の座学や見学もプロジェクターを使って写真や地図で具体的な説明をして下さったので、より一層日本の防衛体制の現状を知ることができ心強く思いました。見学会では、度々訓練機の飛び交う中、通訳をつけて頂いたお陰で最新型の GPS 付き戦闘機やミサイル、ミサイルの中にも色々な種類の弾薬が装備されているものまでであるという事を、よく理解する事ができました。米軍空自主要幹部の方々と一緒に頂いた夕食会はとても楽しかったです。岩本理事のスムーズな進行と米軍司令官のジョークを交えた挨拶が印象的で、自然と緊張が解け、うちとけた会話を楽しむ事ができました。基地内の方は誰もがフレンドリーで明るく礼儀正しい方ばかりでした。「オスプレイ」を「コスプレイ」と言い間違える程無知な私でしたがこの貴重な体験は一生の良い思い出となりました。帰りのお土産コーナーではお薦めの「なかよし」という品を買いました。イカの香ばしさとチーズの風味が絶妙にマッチした、お薦め通りの美味しさでした。記念に頂いた「耳栓」はいつの間にか息子にとられてしまいました！本人曰く「母の怒鳴り声が聞こえなくてちょうどいい！」のだそうです(笑)

この研修会は私にとって大変有意義なもので、機会があったら是非また参加させて頂きたいと思いました。団長始め多くの理事の方々のご準備とアテンドに、心から感謝致します。あっという間の楽しい2日間、大変ありがとうございました。(了)

特別寄稿

米空軍大学留学を通じて感じた日米同盟の意義 The significance of Japan-U.S. Alliance felt through study at US Air War College



Col. Tomohiro Matsuura
- Air Staff College -

空自幹部学校付 1等空佐 松浦知寛

平成 28 年 5 月から約 1 年間、アラバマ州モンゴメリーにある空軍大学で幹部高級課程を履修した私が、1 年間の留学で感じた日米関係等について所見を述べさせていただきます。

1 日本及び自衛隊に対する期待

米空軍大学入校中、教授の講義や学生との会話、米空軍大学以外の大学教授や文化知識人の講義等の中で、様々な日本に対する意見を耳にしました。その中で深く印象に残っている意見は、平和安全法制成立に伴う日本の変化に対する「期待」でした。これには、自衛隊の役割や活動範囲の変化に対する期待も含まれていました。米国は中国、ロシア、北朝鮮、イラン及び過激思想主義者を現在の脅威として明言しています。また、中国の軍事的、経済的、政治的台頭は将来最も懸念すべき脅威と認識しています。これら混沌とするアジア情勢に対応する米国が日本の変化を分析検討し、アジア太平洋地域の平和と安定の基盤として日米同盟を強く意識している事が、日本及び自衛隊に対する期待として表れていると強く感じました。一方、一部には帝国主義の再来や日本の覇権意識の高まりと警戒する意見もありました。

2 米国が世界秩序の中心

入校中 44 カ国の留学生と共に学び議論をしましたが、その中で感じた日本との違いは、各国の留学生の多さと広報力（アピール力）の強さです。他の国々は、米国の様々な大学やシンクタンクに留学生を増やし、自国の利点を教授や学生に積極的にアピールしています。これは米国との間に政治、文化、経済、宗教など様々な軋轢はあるものの、世界秩序の中心に米国が位置付けられている事を、世界各国が認めている証左といえます。日本は、言葉の壁や文化の違い等あれども、独自の利点や強みを生かして存在感を維持しなければ、各国の広報力により世界の常識やルールが変わってしまう危険性を感じました。

3 日米同盟の基盤作り

米国では、米空軍大学優秀卒業留学生に対する表彰が毎年行われます。「International Honor Roll」と呼ばれる表彰で、各国の参謀総長や国防大臣等の要職

に就いた卒業生が表彰対象となります。今年は、杉山航空幕僚長が表彰されました。私は、幸運なことに在校生として、この名誉ある表彰式に出席できました。この表彰式では受賞者が一言挨拶を行います。杉山空幕長の挨拶はユーモア、謝意、熱意等が網羅され、受賞者の中で一番の拍手喝さいを受けていました。実際、授賞式後に様々な米国の関係者から、「杉山空幕長の挨拶は素晴らしかった」との意見を何度も聞きました。私はこの表彰式を通じて、我々は様々な場面を利用して、米国人の心を掴む事及び信頼を得る事が、日米同盟を強化する近道であると感じました。

4 JAAGA 活動へのお願い

日本に対する米国の期待や米国が世界秩序の中心である事を踏まえれば、JAAGA の活動はとても重要であると考えます。現役自衛官と JAAGA の活動の調和を図り、JAAGA の皆様に現役自衛官をサポートして頂くことは日米関係強化につながります。これからも、これまでと同様、JAAGA の皆さまに積極的に日米間の絆を強める活動を行って頂くとともに、現役自衛官に対する叱咤激励をお願い致します。（了）



Col. Matsuura
is leading
his class
(←)

Col. Matsuura's
family together
with their host
family (→)



Accompanying Gen. Sugiyama, Chief of Staff, JASDF, awarded at International Honor Roll Induction Ceremony in Maxwell AFB, Alabama

特集

米空軍交換将校だより

Present circumstances of "Officer Exchange Program between JASDF and USAF"

【 研究開発部門 】
航空開発実験集団 飛行開発実験団
(Air Development and Test Wing)
Maj. Brian M. Fredrickson

初めまして、岐阜基地交換幹部のブライアン・フレドリクソン少佐です。

私が以前勤務していた Edwards 空軍基地は砂漠の中にある、何も無い、火星のようなところ。去年の12月、日米共同飛行試験の計画を練るため、航空自衛隊の同僚2人と一緒に Edwards 空軍基地に行きました。ロス国際空港から車で170キロですが、交通状況によっては、2時間から5時間かかり、ロスの端までにはいつも渋滞しています。我々は基地の中の軍用ホテルに泊まりました。帰る日、渋滞を回避するため、我々はロスの朝の通勤時間を回避するため、0400に起きて、飛行機の出発時刻より3時間早くロス空港のゲートに着きました。そして、我々は出発を待っていました。その際、同僚は鞆から出した本を読んでいた。「何を読んでいますか」と聞くと「Pearl Harborと帝国海軍の歴史について」と同僚は答えました。「あーそうだ」と思い出しました。

出張は12月8日を跨ぎました。アメリカに着いた日、私は USA Today 新聞をホテルから購入し、鞆に入れ、まだ持っていたことを完全に忘れていました。フロントページは「Pearl Harbor 第75記念」についてであり、アメリカの12月7日記念より早く5日に販売されていたものです。同僚の話で偶然に思い出し、私は鞆から新聞を取り出しました。元米大統領 George H.W. Bush (現 93

歳)の特別な社説がフロントページに載っていました。何が書いてあるだろうかと読んでみた。

その前にまずは私の体験に対し、岐阜基地について紹介させていただきます。岐阜基地は Edwards 空軍基地と同じように、珍しくかつ新しい飛行機

やミサイルが見られるところです。世界に XC-2 や X-2 や AAM-5 改や XASM-3 が見られるところは一つしかありません。ちょっとでも考えると素晴らしい事だと思っています。

私は飛行開発実験団 (Air Development & Test Wing (ADTW)) 航空機技術隊で、微力ながら、勤めています。飛実団のモットーは「空の勝利は技術にあり」とあり、Edwards 基地の第412団と Eglin 基地の第96団と同じように ADTW の主任務は、新しい飛行機やミサイル等を開発すること及び既存戦闘機をアップグレードすることです。特別な装備及び飛行機を用いて、色々な飛行試験を実施できる部隊です。私は日々、世界一流と考える航空自衛隊のテストパイロット、テストエンジニア及び整備員と同じフライトラインで仕事しています。岐阜基地司令の平元和哉空将補と団司令の引田淳空将補のおかげで、幅広い活動に参加させて頂き感謝しております。私は岐阜基地の1980年から続いている16番目の交換幹部です。

岐阜以前となる2012年から2015年まで、私は Edwards 基地で F-35 総合実験隊 (Joint Strike Fighter (JSF) Integrated Test Force (ITF)) で勤めていました。第412団の F-35 ITF (第461米空軍飛行隊) は F-35A/B/C 全型を含め9機を保有し、主任務は F-35A エンベロープ拡大及び全型のミッションシステム統合を図るための飛行試験を実施することです。そのため、去年の12月、航空自衛隊の同僚と一緒に Edwards 基地に行くことができてよかったと思いました。私は第412団の連絡先に「試験計画の話ですが、三日間の訪問が数百の電子メールと数十の電話会談より価値があると思う」と伝えました。第412団でよく言われている表現は



Maj. Brian M. Fredrickson



English Club members in Gifu AB
(The third person from left in the back row is Maj. Fredrickson)

「Safe, Secure, Effective, Efficient」です。第 412 団が何かをする際の優先順位は「安全」、「秘密確保」、「効果的」、そして、「効率的」となっています。出張でより効果的かつ効率的にコミュニケーションができたことはよかったですと思いました。

話を冒頭に戻し、去年の 12 月にロス国際空港で USA Today 新聞を手を持ちつつ、私は考えました。George HW Bush 元大統領はキャリア軍人ではありませんでした。第二次世界大戦の直後、米海軍を辞任して、優秀な Yale 大学に入学し、そして、ビジネスマンになりました。しかしながら、George H. W. Bush 元大統領は私より戦争の最前線をよく知っている人だと思います。

1941 年 12 月 7 日、Pearl Harbor が攻撃された頃、George H. W. Bush 元大統領はまだ高校 3 年生でした。高校卒業直後、彼は米海軍に入隊し、空対地グラマ

ン TBM アヴェンジャーのパイロットになりました。1944 年 8 月 1 日、20 歳の時、パイロットとして、小笠原諸島の上で、日本軍の地対空銃で撃たれ、海上にバイルアウトしました。その後、ぎりぎり米軍潜水艦に救助されました。USA Today に乗せた社説の最後の部分ですが、Pearl

Harbor 第 75 周年記念に 93 歳の George H. W. Bush 元大統領の希望は「現在、アメリカと日本は友達だけでなく、親しく同盟としてやることは貴重なことです。過去の恨みに変わり、数十年間の国際協

力が生まれました。今後もアメリカは日本及び全世界が信頼できるような同盟として続けていかなければならないです。第二次世界大戦の犠牲者を無駄にしないように」と伝えられました。

交換幹部として、米空軍幹部の 7 人が日本に派遣されています。人数的には小さいプログラムかと思いますが、日米の間で、色々な人的交流プログラム及び訓練を共に実施でき、嬉しいです。日米同盟が今後も各世代に繰り返し更新しなければいけないと思っています。

岐阜基地での勤務及び航空自衛官の皆様にとっても感謝しています。良い思い出と良い友達もできまし、本当に貴重な体験ばかりです。

いつもありがとうございます。今後も宜しくお願い致します。(了)

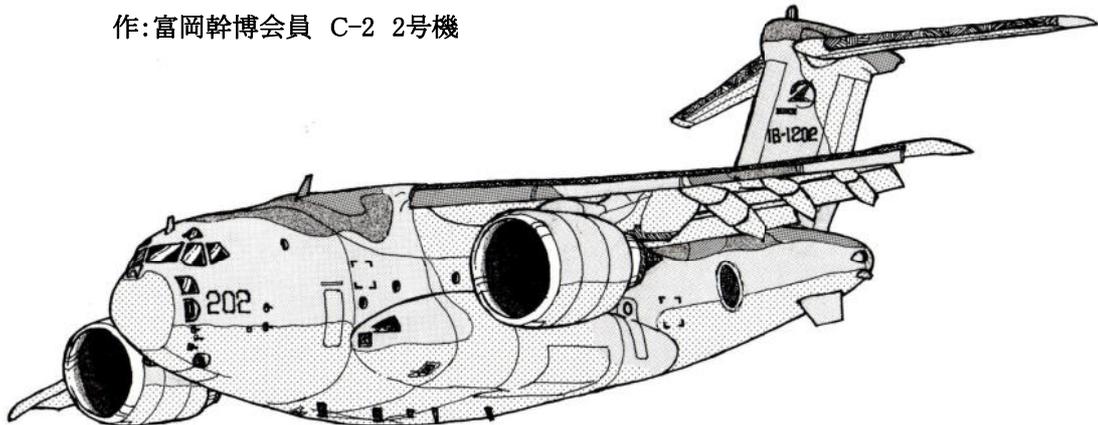


with his family;
his son, Henry (1 year old)
and his wife, Doris



Group photo together with Commander of Air Development and Test Group, JASDF and Chief of the personnel exchange program, USAF in front of the first prototype C-2

作:富岡幹博会員 C-2 2号機



新 入 会 員 紹 介

1 正会員

氏 名	住 所	氏 名	住 所
平 本 正 法 氏	神奈川県相模原市	川 口 泰 志 郎 氏	東京都府中市
荒 木 正 嗣 氏	埼玉県ふじみ野市	村 田 圭 史 氏	東京都あきる野市
吉 川 礼 史 氏	千葉県浦安市	福 江 広 明 氏	東京都世田谷区
山 本 祐 一 氏	千葉県船橋市	森 本 哲 生 氏	東京都西東京市
菅 野 聡 氏	東京都府中市	丸 野 礼 治 氏	沖縄県南城市
池 田 五 十 二 氏	東京都練馬区	黒 瀧 昌 治 氏	埼玉県飯能市

2 個人賛助会員

氏 名	住 所	氏 名	住 所
坂 本 義 光 氏	東京都北区	中 村 由 美 子 氏	神奈川県川崎市
大 石 美 智 子 氏	神奈川県川崎市	加 藤 晴 恵 氏	東京都北区
冨 田 勝 也 氏	東京都昭島市		

3 団体賛助会員

会 社 名	住 所	代 表 者
ハイフライト友の会	石川県小松市	上 出 雅 彦 氏

4 法人賛助会員

会 社 名	住 所	代 表 者
三菱商事マシナリ(株)	東京都千代田区	今 泉 茂 徳 氏

会 員 募 集

○ 今期は、会則の変更で団体賛助会員の規定が追加され、また、関係各位のご努力で新たに正会員 12 名、個人賛助会員 5 名、団体賛助会員 1 団体、法人賛助会員 1 社の合計 19 名(団体、社)の入会を得ることができました。29.5.31 現在、正会員数 257 名、個人賛助会員数 76 名、団体賛助会員 2 団体、法人賛助会員数 40 社となりました。

○ 会則の変更に伴い、三沢市防衛協会を法人賛助会員から団体賛助会員へと変更し会員番号を 3001 へ、すべての法人賛助会員の会員番号を 3000 番台から 4000 番台へと変更しました。なお、下 3 桁の会員番号は変更ありません。

○ 今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。

○ 本会への入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当理事から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員：航空自衛隊のOB

賛 助 会 員：航空自衛隊のOB以外の方。正会員 3 名の推薦が必要です。

【連絡先】

◎郵便 〒160-0002

東京都新宿区四谷坂町9番7号 ZEEKS 四谷坂町ビル3F

日米エアフォース友好協会 会員係

◎メール

membership@jaaga.jp

平成 29 年度 JAAGA 役員

職 名	氏 名	
会 長	岩 崎 茂	
副 会 長	森 下 一 渡 邊 至 之 長 島 修 照	
理 事	理 事 長	小 野 田 治
	副 理 事 長	山 崎 剛 美
	企 画	平 田 英 俊 中 島 邦 祐 清 藤 勝 則 平 本 正 法 上 田 知 元 杉 山 政 樹
	総 務	福 井 正 明 狩 集 貴 尚 岩 成 真 一 福 江 広 明 横 谷 薫
	渉 外	石 野 次 男 阪 東 政 詮 谷 井 修 平 吉 田 浩 介 岩 本 真 一 藤 田 信 之 川 口 泰 四 郎
	会 員	森 田 公 治 米 沢 敬 一 伊 藤 哲
	広 報	早 坂 正 杉 山 伸 樹 渡 部 憲 政 木 村 和 彦 福 永 充 史 池 田 五 十 二
	財 務	日 吉 章 夫 内 山 隆 弘 吉 川 礼 史 山 本 祐 一
監 事	池 田 勝 阿 部 英 彦	
支 部 役 員	支 部 長	丸 山 泰 (三 沢) 丸 野 礼 治 (沖 縄)
	支 部 事 務 局 長	山 本 親 男 (三 沢) 木 村 貞 夫 (沖 縄)
顧 問 (H P 担 当 特 任)	四 ツ 家 邦 紀	
顧 問 (在 米 特 任)	廣 中 雅 之 (注 ; 赤 字 は 新 任 者)	

JAAGA 役員退任者

職 名	氏 名
支 部 役 員	石 津 靖
監 事	野 田 耕 平
理 事	新 井 洋 一 秦 啓 次 郎 山 本 康 正 糸 永 正 武 若 林 秀 男 木 村 孝 半 澤 隆 彦

【編集後記】

- ◇ JAAGA だより 52 号をお届けします。今号も航空自衛隊現役自衛官と在日米空軍軍人との「共同」及び「友好と絆」を主題として、JAAGA 活動の主な内容を編集しています。
- ◇ 航空幕僚監部広報室や教育課等からは多大なご協力をいただき、部隊からも多くの写真や記事を提供していただきました。特に今回は教育課のご協力により、米空軍 AWC を卒業し帰国したばかりの松浦 1 等空佐から日米同盟について感じたホットな所感文を寄稿いただきました。感謝申し上げます。
- ◇ 前号に引き続き、沖縄地区の日米下士官交流の活発な様子を取り上げました。今後も各部隊の交流状況を積極的にモニターしていきたいと思ひます。
- ◇ 今号の挿絵には、これまで同様に山本康正会員から、そして新たに富岡幹博会員から寄稿いただきました。次号以降も継続して投稿していただく予定です。どうぞ楽しみにしてください。
- ◇ 『JAAGA だより』は JAAGA ホームページ (<http://www.jaaga.jp/>) からご覧頂けます。バックナンバーもすべて掲載しています。
- ◇ 広報理事を中心とする JAAGA だより編集員一同、今後も JAAGA の活動を地道に発信していきたいと思ひますので、会員及び現役の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

(編集子)



作: 山本康正会員